

リオで健闘 誇らしい

車いすラグビー 乗松選手

両親「次も力出し切って」

車いすラグビーの日本は1次リーグ初戦でスウェーデンを撃破。

乗松聖矢選手(26)は荒尾市の両親は、同市の自宅でインターネット中継を観戦し、声援を送った。

大事な初戦に、先発メンバーとして起用された乗松選手。「コーチの期待に応えてくれれば」。父親の康浩さん(56)と母親の尚美さん(56)は、祈るような表情で画面を見つめた。

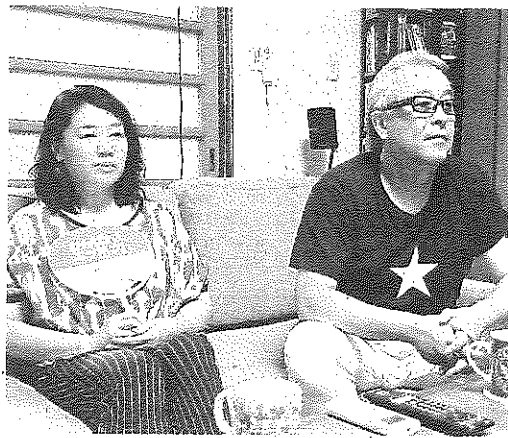
乗松選手は生まれつき手足に力が入らなくなる病を患い、12歳から車いす生活を送る。「心だけは不自由を感じてほしくない」。両親は、息子がやりたいと思うことができよう全力で支えてきた。

有明高専時代に車いすバスケットを始め、23歳で車いすラグビーに出会う。当たりが激しく、初めての試合で左肘の骨にひびが入る大けがを負ったが、両親は「自分で決めたこと。止める理由はない」と黙って見守ってきた。

尚美さんは、試合で相手に果敢に向かっていく乗松選手の姿を初めて目にしたとき、「こんなに気の強い子だったのか」と気付かされた。子どもの頃は泣き虫だった三男坊の成長ぶりを誇らしくも感じたという。

スウェーデン戦でも、乗松選手は体当たりで相手の攻撃を封じ、スピードを生かして得点も決めた。康浩さんは世界の舞台での息子の活躍をたたえ、「今後もけがなく、力を出し切ってほしい」と気遣った。

日本は16日朝、フランスと対戦する。(原大祐)



車いすラグビーの乗松聖矢選手が出場した試合をテレビで観戦する父親の康浩さん(右)と母親の尚美さん=15日朝、荒尾市

政府広報 | 内閣府

一人ひとり、かけがえのない命

障害がある人もない人も、みんな輝く存在です。お互いを認め合い、支え合いながら、未来を築く共生社会を実現しましょう。